

平成 26年1月1日以降の実績

平成 26 年1月9日午後3時時点

1号機

【原子炉への注水】

[平成 26 年]
・現時点で特記事項なし。

【使用済燃料プール代替冷却】

※平成 23 年8月 10 日より、本格運用を実施。
[平成 26 年]
・現時点で特記事項なし。

【滞留水の移送】

[平成 26 年]
・現時点で移送実績なし。

【原子炉格納容器および原子炉圧力容器への窒素注入】

※平成 23 年4月 7日より、原子炉格納容器への窒素封入を実施。
※平成 23 年 11 月 30 日より、原子炉圧力容器への窒素封入を実施。
[平成 26 年]
・現時点で特記事項なし。

【原子炉格納容器ガス管理システム】

※平成 23 年 12 月 19 日より、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運転を実施。
[平成 26 年]
・現時点で特記事項なし。

【原子炉格納容器ガスサンプリング】

[平成 26 年]
※原子炉格納容器ガス管理システムのチャコールフィルタ・粒子状フィルタのサンプリングを計画的に実施。

【建屋ダストサンプリング】

[平成 26 年]
※原子炉建屋カバー排気フィルタ設備による原子炉建屋上部のダストサンプリングを計画的に実施。

【その他】

[平成 26 年]
・現時点で特記事項なし。

2号機

【原子炉への注水】

[平成 26 年]
・汚染水処理の負荷低減等を踏まえた原子炉注水量の低減操作として、2号機の原子炉注水について、1月8日午前 10 時 17 分、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.5m³/h から約 3.0m³/h へ変更(給水系からの注水量は約 2.0m³/h で継続中)。

【使用済燃料プール代替冷却】

※平成 23 年5月 31 日より、本格運用を実施。
[平成 26 年]
・現時点で特記事項なし。

【滞留水の移送】

[平成 26 年]
・平成 25 年 12 月 31 日午前9時 34 分、2号機タービン建屋地下から3号機タービン建屋へ溜まり水の移送を開始。平成 26 年 1 月 7 日午前9時 25 分移送停止。

【原子炉格納容器および原子炉圧力容器への窒素注入】

※平成 23 年6月 28 日より、原子炉格納容器への窒素封入を実施。
※平成 23 年 12 月 1日より、原子炉圧力容器への窒素封入を実施。
[平成 26 年]
・現時点で特記事項なし。

【原子炉格納容器ガス管理システム】

※平成 23 年 10 月 28 日より、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運転を実施。
[平成 26 年]
・現時点で特記事項なし。

【原子炉格納容器ガスサンプリング】

[平成 26 年]
※原子炉格納容器ガス管理システムのチャコールフィルタ・粒子状フィルタのサンプリングを計画的に実施。

【建屋ダストサンプリング】

[平成 26 年]
※2号機原子炉建屋排気設備でのダストサンプリングを計画的に実施。

【その他】

[平成 26 年]
・現時点で特記事項なし。

3号機

【原子炉への注水】

[平成 26 年]
・現時点で特記事項なし。

【使用済燃料プール代替冷却】

※平成 23 年7月 1日より、本格運用を実施。

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

【滞留水の移送】

[平成 26 年]

・平成 25 年 12 月 17 日午後 4 時、3 号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)へ溜まり水の移送を開始。(移送継続中)

【原子炉格納容器および原子炉圧力容器への窒素注入】

※平成 23 年 7 月 14 日より、原子炉格納容器への窒素封入を実施。

※平成 23 年 11 月 30 日より、原子炉圧力容器への窒素封入を実施。

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

【原子炉格納容器ガス管理システム】

※平成 24 年 3 月 14 日より、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運転を実施。

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

【原子炉格納容器ガスサンプリング】

[平成 26 年]

※原子炉格納容器ガス管理システムのチャコールフィルタ・粒子状フィルタのサンプリングを計画的に実施。

【建屋ダストサンプリング】

[平成 26 年]

※原子炉建屋上部のダストサンプリングを計画的に実施。

【3号機原子炉建屋5階中央部近傍（機器貯蔵プール側）での湯気発生状況】

湯気の有無をカメラで確認した日時、至近の気象データは以下の通り

・平成 26 年 1 月 2 日午前 7 時 44 分頃、湯気発生を確認(午前 7 時 40 分時点の気象データは、気温 3.9℃、湿度 91.2%)。1 月 3 日午前 7 時 42 分頃、湯気が確認されなくなった(午前 7 時 40 分時点の気象データは、気温 1.4 、湿度 67.7%)。

・平成 26 年 1 月 9 日午前 7 時 51 分頃、3 号機原子炉建屋 5 階中央部近傍より、湯気が発生していることをカメラにて確認。同日午前 8 時時点のプラント状況、モニタリングポストの指示値等に異常は確認されていない(午前 7 時 50 分時点の気象データは、気温 3.8 、湿度 94.2%)。

【その他】

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

4 号機

【使用済燃料プール代替冷却】

※平成 23 年 7 月 31 日より、本格運用を実施。

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

【その他】

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

5 号機

【滞留水の移送】

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

【その他】

[平成 26 年]

・1 月 6 日午後 10 時 21 分頃、5 号機タービン建屋 1 階をパトロールしていた当社社員が、発電機の冷却に使用する固定子冷却水系において、冷却水配管に取りつけられている安全弁の配管より水が漏れいしていることを発見。同時刻に至近の弁を閉めることで、漏れいが止まったことを確認。なお、固定子冷却水系で使用される水は純水を使用しており、漏れいた水は汚染水ではない。漏れい範囲は以下のとおり。

堰内:約 2m×約 4m、深さ約 10cm で漏れい量は約 800 リットル

堰外:約 5m×約 5m、深さ約 5mm で漏れい量は約 125 リットル

6 号機

【滞留水の移送】

[平成 26 年]

※タービン建屋地下から仮設タンクへの移送を適宜実施中。

【その他】

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

水処理装置

【セシウム除去設備】

[平成 26 年]

・1 月 6 日午前 11 時 50 分頃、第二セシウム吸着装置(サリー)B 系セシウム吸着塔下部の配管付け根部分に、微量のにじみをパトロール中の福島第一原子力規制事務所の原子力保安検査官が発見。その後、にじみの状況に変化がないことから、現状では追加的な漏れいはないものと判断。また、当該箇所付近の表面線量測定を実施した結果、当該吸着塔が設置されているエリアにおける雰囲気線量(バックグラウンド)と同等の値であることを確認。

【線量測定結果】

当該箇所の表面線量測定値:約 0.10mSv/h(ガンマ線)

約 0.03mSv/h(ベータ線:70 μ m 線量当量率)

雰囲気線量測定値:約 0.025mSv/h(ガンマ線)

約 0.00mSv/h(ベータ線:70 μ m 線量当量率)

にじんていた水について、スマヤろ紙に吸着させ測定を実施した結果、約 4,000cpm を検出。この測定結果は床面の放射性物質による影響も考えられることから、再測定を行い、雨水による影響を含めて確認する。

1月7日、あらためて当該部の表面線量測定を実施したところ、雰囲気線量(バックグラウンド)と同等であり、汚染水の漏えいではないことを確認。また、当該部についてスマヤろ紙による再測定を実施し、300cpm であることを確認。なお、にじみ痕等の状況については、同日、再度現場確認を行い、変化がないことを確認。以上のことから、にじみのあった水は当該吸着塔を使用前に屋外に保管していた際に、遮へい容器の隙間部から浸入した雨水と判断。今回のにじみは吸着材容器の健全性に影響するものではないが、雨水浸入防止の観点から以下の通り対策を実施する。

1. 使用済み吸着塔を優先して、遮へい容器の隙間部のコーキング処理を実施する。
2. 未使用の吸着塔についても、隙間部のコーキング未実施のものについて、コーキング処理を実施する。
3. 新製の吸着塔については、製作にあわせて雨水浸入部のコーキング処理を継続して実施する。

【多核種除去設備 (ALPS)】

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

【淡水化装置】

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

タンクからの水の漏えい関連

・H4エリア I グループ No.5タンクからの漏えいを受け、同様の構造のタンクの監視、および詳細な調査を継続実施中。

【タンクパトロール結果】

[平成 26 年]

< 特記事項 >

・現時点で特記事項なし。

【H4エリアタンクにおける水漏れに関するサンプリング結果】

・H4エリア I グループ No.5タンクからの漏えい、およびB南エリアタンク(B-A5) 上部天板部からの滴下を受け、福島第一南放水口付近、福島第一構内排水路、H4エリアタンク周辺および地下水バイパス揚水井 No.5~12 のサンプリングを継続実施中。

[平成 26 年]

南放水口・排水路 (T-2、C-1、X-2、X-1、C-1-1、B-1、B-2、B-3、B-0-1、C-0、C-2)

< 特記事項 >

・現時点で特記事項なし。

H4エリア周辺地下水 (E-1~E-10、ウェルポイント)

< 特記事項 >

・現時点で特記事項なし。

【H4エリア周辺のウェルポイント汲み上げ実績】

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

【その他】

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

地下貯水槽からの漏えい関連

【地下貯水槽に関する水のサンプリング結果】

[平成 26 年]

< 特記事項 >

・現時点で特記事項なし。

タービン建屋東側の地下水調査関連

・1~4号機タービン建屋東側に観測孔を設置し地下水を採取、分析しており、平成 25 年6月 19 日、1、2号機間の観測孔において、トリチウムおよびストロンチウムが高い値で検出されたことを公表し監視強化するとともに、1、2号機タービン建屋東側に設置したウェルポイントおよび集水ピット(南)から地下水をくみ上げ中。

平成 25 年 11 月 27 日に採取した2、3号機取水口間ウェルポイント北側における分析結果で全ベータが高い値で検出されたことから、今後、計画的に2、3号機東側に設置したウェルポイントから地下水のくみ上げを実施。

【地下水観測孔のサンプリング結果】

[平成 26 年]

< 特記事項 >

・平成 25 年 12 月 30 日採取のH4エリア周辺地下水E-1のトリチウム値が、同年 12 月 29 日の 330,000 Bq/L から 420,000 Bq/L に上昇しているが、当該地点においては、12 月上旬に数日間、450,000 Bq/L 前後のトリチウムが検出されており、今後も、監視を継続していく。

【その他】

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

1~4号機サブドレン観測井調査関連

・1~4号機建屋に隣接している井戸(サブドレンピット)の浄化試験をした結果、ピット内の溜

まり水から放射性物質が検出されており、その流入経路としてフォールアウトの可能性があることから、新たに1～4号機建屋周辺に観測井を設置し、フォールアウトの影響について確認することとしている。

【サブドレン観測井のサンプリング結果】

[平成 26 年]

< 特記事項 >

・現時点で特記事項なし。

その他

【その他設備の不具合・トラブル】

[平成 26 年]

・平成 26 年1月9日午後2時5分頃、3号機原子炉建屋1階北西エリアにおいて、ガレキ撤去作業にて使用している遠隔操作の無人重機[ASTACO-SoRa(アスタコ・ソラ)]より作動油が漏えいしていることを協力企業作業員が発見。当該重機を停止したことにより、漏えいは停止している。なお、漏えい量は、約10cm×約10cm×約1mmの範囲(2箇所)であり、同日午後2時25分に双葉消防本部へ連絡。

【けが人・体調不良者等】

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

【その他】

[平成 26 年]

・現時点で特記事項なし。

以 上